
モンスターハンター アドベンチャーズ ～失われた黄金都市～

ガリレオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター アドベンチャーズ 失われた黄金都市

【Nコード】

N7028F

【作者名】

ガリレオ

【あらすじ】

とある事件からモンスターの言葉を理解し、別世界の遠い未来からやって来たドクター・エメリツヒの影響により、ありとあらゆる科学を学び、一流のハンターまで駆け上がった青年ジェラード。彼はモンスターの生態などを洞察し、その動きを推測し、そして見事に討伐完了する。そんなある依頼の帰り、辺境とは別の地域から現れた黒装束の者達から、依頼が渡された。黄金郷搜索の依頼だ・・・。しかも依頼者はジェラードだけではないと言う・・・。

失われた黄金都市編 第1話 未来少年（前書き）

空想科学冒険記&サスペンスミステリー。

全てがオリジナルです。地域もモンスターも全て原作とは関係のないものばかりですので真に受けしないで下さい。

なお、一部グロやスプラッタがありますのでご注意願います。

またジェラードの特異な動きなどは別世界の未来文明科学の影響ですのでご了承を・・・。

更にモンスターだけでなく人との戦いもございます故。いくつか、とある映画の部分もあります。

失われた黄金都市編 第1話 未来少年

ここ、とある郊外の町の平和な家庭でのどかに暮らす人々達、だがそこへ突然、警告もなく！

ドカアーローンッ！

白い閃光が炸裂し、町は一瞬にして吹き飛び、巨大なキノコ雲が舞い上がってきた。

核爆弾が炸裂する！

そんなショッキングな映像を写す原子力の教育映画をじっと観ているのは、レウスシリーズを見事に揃え、髪までレウスレイヤー。全てが大空の覇者飛竜の代表『リオレウス』関係。

ジェラード・ルードヴィッグは興味本位で教育映画を観ていた。

「未来の科学って、酷いもんだな。」

「同時にそれが科学者達の夢でもあるんだぞ。」

ジェラードの後ろで何やら怪しい実験をしているのは十数年前別世界の未来からやって来た科学者エメリツヒ博士。

実験をしながらもジェラードの声は聞こえてるようだ。

「まあ確かに凄エけど、他人に迷惑をかけることが夢なのか？」

「そうかもしれないがなあ・・・。」

ジェラードの言葉は事実しか言いようがない、核は凄まじい威力を持つが同時に危険極まりない殺戮兵器だ。

これを使ったテロも少なくはない、しかし

「私の世界では核エネルギーを安全考慮にする為、ありとあらゆる実験をした結果、それが無事完成し、全ての家庭ではエネルギー危機が回避された事もあったし、核を兵器と化す存在も、無くなっていた。」

「じゃあ何でこんなビデオがあっただんだ？」

テレビのDVDデッキから教育映画のDVDを取り出し、博士に見せつける。

「私自身も分かん、昔からあったからな、恐らく私の遠い祖先が観てたかもしれん、理由は多分、核爆弾と言う、存在であろう。」

「それもその祖先の夢なのかよ？」

「その通りだ。昔は酷い時代だったらしいからな、二足歩行機体の実現などな」

「ふーん」

そう言うと、ジェラードは壁に置いたスパルタスカスを背中に背負い、レウスヘルムを装着する。

「そろそろ出発か？」

「ああ、約束の時間があるからな。」

「気を付けとけ！」

博士は後ろを向いたままジェラードに向かって手を振る、ジェラードも博士に向かって、手を握り親指を立て扉から出て行く。

家の周りや屋根には雪が積もっており、寒い風が吹いてきた。

ここは雪山に埋もれたフラヒヤ山の麓の村ポツケ村。

この村から彼の冒険物語が始まる。

失われた黄金都市編 第2話 依頼

博士エメリツヒの豪邸から出たジェラードは壁に掛けてあるスケボードを手を持つ。

後ろ部分を踏むと、そこからジェットノズルが吹き出し、ジェラードを乗せたスケボードは速く進んでゆく。

このスケボードもドクの発明故、ジェラードが愛用し、移動手段として用いられる。ジェラードを乗せたスケボードが進んでいる内にそれが通りかかる、住民達の的となっている。

彼は軽く挨拶し、見慣れた人たちも、彼に向かって手を振るう。

初めて見る者達から見れば、あまりにも不思議な光景だったりする。

やがて見える、集会所を目前に、ジェラードは巧みにボードを立てながらブレーキをし、扉の前に止まった。

中に入ればそこには暖かな空気が広がっている。

寒く厳しいポケ村の外と違って、この集会所は暖炉があり、気持ちがいい。

カウンターには受付嬢が立っており、暇なときは頼杖を立てて来る人を待っていた。

中でもG級の受付をしている女性『シャーリー』に来る人は、大抵数人くらいだった。

以前は多くの熟練ハンター達が、G級に挑戦し伝説を残した事もあったが、今となってはそれが絶えている。

ジェラードはG級の受付を見たが、やはり誰も来ない事に、予想だにはついた。

掲示板を見ると、そこには以前お世話になった教官『ジオ』がいた。

その隣には、クックシリーズやランポスシリーズを揃え装備したかなり若いハンター二人がいた。

ジェラードはジオの元へ歩いてゆく。

「うむ！よく来たな！前よりも早かったぞ！」

「そいつはどうも、・・・んで、この二人だな。」

ジェラードは教官の隣にいる二人に顔を向けた。

「うむ！今回の依頼人だ！」

「初めまして！リュックと申します！」

「私はジェーンです。」

「二人共、まだまだ半人前のハンターだ！」

リュックとジェーンの自己紹介が終わると、ジオは二人の事を詳しく説明した。

ジェラードも二人がまだ間もないハンターだと言う事は目に見えた。その証拠が、二人の持っている武器だ。

まずリュックの武器は、アサシンカリングとジェーンの武器は、シヨットボウガン蒼。

いずれも序盤で完成できる武器

「んで、依頼内容は？」

「は、はい・・・、女王退治に・・・。」

ジェラードの問いかけに、ジェーンはオドオドと答えた。

「女王と言つと・・・、レイアのヤツだな。」

「はい、そうです」

レイア・・・正しくは『リオレイア』。

地上を縄張りとする雌火竜。

空を支配するのがリオレイスであるならば、大地を支配するのがリオレイアという形となっている。

主に密林や沼地での目撃例が多い。「でも、おまえ等がそれに挑戦するんだつたら、それなりに腕が立つんじゃないか？」

「いえ・・・それが・・・。」

「ジェラード・・・少しいいか？」

口ごもるリュックに、ジオは手招きして、集会所の外に出た。

「実はあの二人がレイアに挑戦したのは今回で二回目なんだ。」

「なる程、それで俺の出番ってな訳ね。」

詳細を説明するジオに何故こうなったかは何となく理解したジェラード。

つまり、レイアの討伐に、自分も参加し、レイアに対する戦い方の手本などを、見せてあげる事・・・という意味だった。

ジェラードも別に嫌ではないが、困っているハンターの為に、一肌脱ぐ事も、先輩ハンターとして頼もしい事だ。

教官の話によれば、他にも頼んで欲しいハンターを提供させたが、どのハンターも事情で忙しく、手伝う気にはなれないという、そこで彼の事を思い出し、事前に、昨夜、話したのだった。

とりあえず、ジェラードは集会所に戻り、リュックとジェーンに依頼を引き受けた。

出発前に準備を済ませ、いよいよ、集会所の裏口の扉を開け、雌火竜がいる場所へ向かう馬車に乗り、出発する。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7028f/>

モンスターハンター アドベンチャーズ ~失われた黄金都市~

2010年10月10日05時18分発行